

# 1. 評価報告概要表

作成日 2007年11月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1072200262
法人名	特定非営利活動法人あすなる会
事業所名	グループホーム結芽
所在地	群馬県北群馬郡榛東村新井1539-3 (電話) 0279-55-1568

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年11月7日

## 【情報提供票より】(19年 10月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	5人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 1日700円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 950円 おやつを含む		

### (4) 利用者の概要(10月 20日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	6名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81歳	最低	73歳	最高	91歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	榛東しとう医院 菊池医院 真下歯科クリニック 関越中央病院
---------	-------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

NPO法人が経営するホームは、平屋で玄関近くにデイサービス、奥にグループホームが位置している。ホームから一步外に出ると田舎の風景が広がっている。職員は利用者の生活に寄り添い、ゆとりをもったのびのびとした介護を行っている。緊急時における医療面での対応は看護師が3人いるので安心できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題は、職員会議や運営推進会議に報告し、討議している。改善された点もあるが、介護記録等の書類を統括・整理することは、あまり進みがみられない。又、脱衣所の薬剤は、容易に手の届かない場所に置くなど保管方法の検討を期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、2人で作成した。自己評価は、全員で取り組み、生活の中で具体化することを期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族、役場職員、区長、民生委員、近隣住民等13名で構成し、2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームから利用者の様子、外部評価の結果等の報告、区長から村の行事案内、意見交換がされている。運営推進会議での意見を、よりよい改善に活かし向上に努められることを期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見は、ホームに来所した時や運営推進会議の場で聞くように努めている。また、相談・苦情窓口を設置し、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 現在利用者の半数以上が村民となり、村の敬老会に参加したり、地域の神社祭りに行った時などに、地元の方から声をかけてもらっている。ホームでのバーベキューや花火大会には、近所の方を招待し交流に努めている。地域の道路清掃は、管理者が参加している。

## 2. 評価報告書

(    部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「ゆとりをもって、恵まれた自然の中で、のびのびと、健康で、安心できるケア」の実現を目指しているが、地域密着型サービスとしての役割が盛り込まれていない。	○	これまでの理念に、地域密着型サービスとしての役割を明示した理念を追加していただきたい。また、理念をパンフレット等にも明記していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に模造紙に記入して掲示されている。また、管理者と全職員が、日々のミーティングにおいて理念を共有し、利用者に対しより良い生活を提供できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の半数以上が村民の為、地元の方からの声かけが多く、村の敬老会やお祭り等に参加して交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価での改善課題は、運営推進会議や職員会議で報告をし討議している。トイレのカーテン生地を変更する等の改善に取り組んでいる。しかし、介護記録等の書類の総括・整理はなされていない。	○	前回評価の課題である介護記録等の書類が多岐にわたっているため、職員会議等で意見交換や情報交換を活発にして検討し、統括・整理をしていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、13名で構成され、2ヶ月に1回開催されている。会議では、ホームから利用者の様子、外部評価の結果等の報告、区長から村の行事案内、意見交換が行われている。しかし、会議での意見等の活用がされていない。	○	運営推進会議での意見を協議して、よりよい改善に活かし向上に努めていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用料の滞納や地域福祉権利擁護事業など、ホームだけでは解決できない時には、村役場に相談している。また、村のケアマネージャー会議に参加し、新たな介護サービス情報を得るなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等には、支払いに1ヶ月に1度来所してもらい、その時に利用者の暮らしぶりや健康状態等について報告している。2ヶ月に1度の家族もいるが、ホーム便り「ゆめだより」で、利用者の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見は、面会時や運営推進会議において聞くように努めている。また、相談・苦情窓口を設置し、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の環境を変えないように考えているが、併設のデイサービスとの職員の異動はある。離職する場合は、介護の質が低下しないよう、他の職員がカバーして利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員の質的向上を図るためのフォローアップ研修や介護講座に参加したり、県社協主催の新任者研修に参加している。しかし、ホーム内での研修報告がなされていない。	○	研修の情報を全職員で共有するため、研修報告書を回覧したり、職員会議で報告する機会を確保する等の取り組みをしていただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加して、去年は相互研修を2回行い、1回は他のグループホームの研修に出向き、同業者との交流を通じサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学してもらい、お茶を飲んでいただいたり、短時間でも過ごしていただき、雰囲気を確認してもらっている。併設のデイサービスを利用して、馴染みながらのサービス利用もお勧めしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が得意とするうどんや蕎麦打ち、焼きもち作りは、教えてもらいながら職員と一緒に作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、利用者や家族等から「なじみの暮らし方」をお聞きしている。「なじみの暮らし方」を継続できるように、またどのように暮らしたいかを日々の表情を汲み取りながら支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族には、日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。月1回の職員会議や時々のカンファレンスで意見交換を行い、利用者本位の介護計画作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しをしているが、性的な問題行動が生じた場合やインフルエンザになった場合等状況の変化があった場合は、利用者や家族と相談して現状に即した介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日頃より介護で悩んでいる方の相談を受け、アドバイスをを行っている。また、空き部屋を利用したショートステイを勧めたことがあるなど柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は、入居前のかかりつけ医に受診している。また、月2回診療所から往診を受けている利用者もいる。かかりつけ医と報告や相談を行いながら、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、寝たきり状態になる等の重度化、終末期には対応できないと伝え、特別養護老人ホームへの申し込みを勧めている。しかし、実際には介護度5のアルツハイマー型痴呆の方を家族と相談しながらホームで介護している。	○	常勤の看護師1名、非常勤の看護師2名が配置されているので、医療連携体制加算の検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃より一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけを行っている。個人情報の取り扱いは、職員入職時に誓約書を書いてもらい、プライバシー確保の徹底をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活介護週間サービス計画を作成しているが、職員側の決まりを優先するのではなく、利用者のその日、その時の気持ちを優先した対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に、野菜の皮むきやすじとりなどをカウンターでもらったり、盛り付けや後片付けを手伝ってもらっている。職員も一緒に食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回、10時～12時の間で入浴を行っている。入浴の順番や、利用者の希望を聞き、ゆっくり入浴できる支援をしている。入浴を拒否する利用者には、利用者のタイミングに合わせて入浴できるよう心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日めくりカレンダーをめくる、ホワイトボードに日付を記入する、洗濯たたみや洗濯干し、オシボリまるめ等、利用者のできることに、できそうなことに応じて、役割を分担している。毎日2時からレクリエーションをしたり、隣の公園でおやつを食べるなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近くを散歩している。時には、公園で銀杏を拾ったり、イナゴを取ったりして楽しんでいる。徘徊する利用者には、その人のタイミングにあわせて、職員が付き添って外出支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、デイサービスとグループホーム利用者の共用であるが、グループホーム側からはまったくみえない所に位置している。玄関に鍵をかけていないが、外出してしまう利用者があるため安全確保のため、家族等の同意を得て、手前2m位の所にあるドアの上部に施錠している。利用者は、簡単な鍵なので自分で開閉している方もいる。	○	利用者の安全を確保しながら、日中鍵をかけないですむ工夫を検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防災訓練を実施し、消防署と消防設備会社の指導を受け、消火器の使い方や感知器の点検をしている。日頃より近所の方々には災害時の協力をお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を詳細にチェックし、不足している場合には、かかりつけ医に相談し、総合栄養剤を出してもらったり、家族に相談してアミノ酸ゼリー等を購入してもらっている。献立表は、カロリー計算をし、1日に20～30種類の食品が取れるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、皆で過ごせるようテーブルが2つ設置されたり、一人の居場所としてソファが置かれたり、キッチンにカウンターを設置して、思い思いの場所で過ごせるよう工夫をしている		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、慣れ親しんだ品物や写真、自分で作った作品が展示され、利用者が楽しく過ごせるような工夫がされている。		